

タンチョウも住めるまちづくり検討協議会

日時：平成 31 年 2 月 27 日（水） 15 時-17 時

場所：長沼町総合保健福祉センター「りふれ」研修室 A・B

議事次第

1. 開会

2. 議事

- (1) タンチョウの飛来状況等について
- (2) 舞鶴遊水地及び千歳川流域の自然環境について
- (3) 生息環境専門部会の取組状況について
- (4) 地域づくり専門部会の取組状況について
- (5) 地域による取組について
- (6) 平成 31 年度以降の取組について

3. 閉会

<配布資料>

議事次第

委員名簿・配席図

資料 1：舞鶴遊水地及び千歳川流域の自然環境について

資料 2：生息環境専門部会の取組状況について

資料 3：地域づくり専門部会の取組状況について

資料 4：平成 31 年度以降の取組について

参考資料 1：第 7 回長沼町タンチョウとの共生検討会議 議事概要

第5回 タンチョウも住めるまちづくり検討協議会

日時：平成31年2月27日(水) 15時～17時

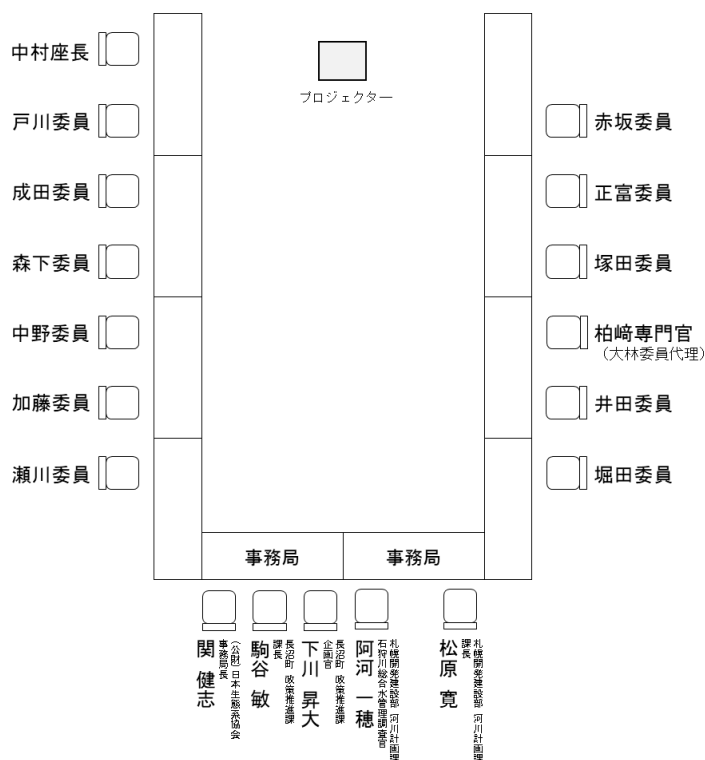
場所：長沼町総合保健福祉センター「りふれ」研修室A・B

■委員名簿

	氏名	所属	備考
委員	赤坂 猛	前 酪農学園大学 教授	
	井田 泰蔵	北海道開発局 札幌開発建設部 次長	
	大林 圭司	環境省 北海道地方環境事務所 統括自然保護企画官	代理（野生鳥獣感染症対策専門官 柏崎 昭）
	加藤 幸一	舞鶴遊水地にタンチョウを呼び戻す会 会長	
	小磯 修二	一般社団法人地域研究工房 代表理事	欠席
	瀬川 明廣	まおいネットワーク広場	
	塚田 みゆき	北海道 空知総合振興局 地域創生部長	
	戸川 雅光	長沼町長	
	中野 政光	長沼町商工会	
	中村 太士	北海道大学大学院 農学研究院 教授	座長
	成田 正夫	ながぬま農業協同組合 代表理事組合長	
	堀田 伸之	札幌開発建設部 千歳川河川事務所 所長	
	正富 宏之	専修大学北海道短期大学 名誉教授	
	見田 義之	株式会社アクティブリンク 代表取締役社長	欠席
	森下 伸	長沼町観光協会 会長	

※敬称略 50音順

■配席図



(2) 舞鶴遊水地及び千歳川流域の 自然環境について

舞鶴遊水地内の植生状況

- ガマやフトイなどの湿生植物群落の中にヨシ原がパッチ上に存在。タンチョウ営巣に向けて拡大が望ましい。
- 樹林面積の微増など、湿原環境の乾燥化への注意が必要である。

植生図 凡 例 ※イ：イグサとも呼ばれる湿性草本の一種。

一年生草本
多年生抽水植物(高茎)
多年生抽水植物(低茎)
多年生沈水・浮葉植物

多年生草本(高茎)
樹林
人工草地

裸地
開放水面

*:平成30年度は確認されなかった群落

湿地・水域区分

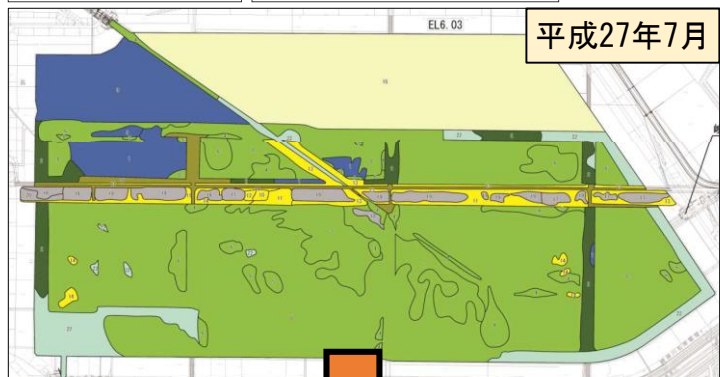
- ① ミズアオイ群落 *
- ② サジオモダカ群落 *
- あ ホソバミズヒキモ群落
- ③ マコモ群落
- ④ ミクリ群落
- ⑤ ガマ・ヒメガマ群落
- ⑥ ウキヤガラ群落
- ⑦ フトイ群落
- う ヒシ群落(新規群落)

草地区分

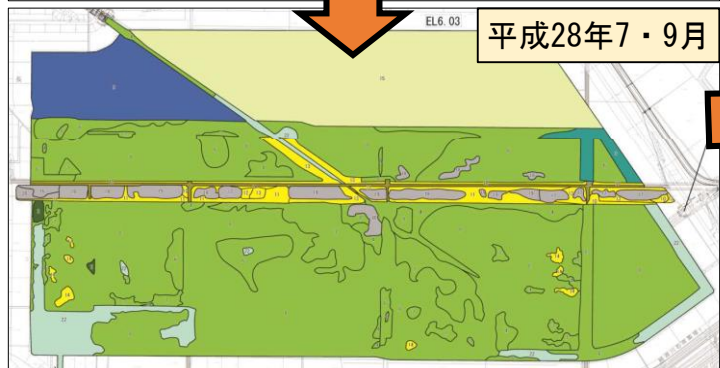
- ⑧ オオイヌタデ・ヤナギタデ群落 *
- ⑨ コウガイゼキショウ類群落 *
- ⑩ オオヨモギ群落
- ⑪ オギ群落
- ⑫ クサヨシ群落
- ⑬ ヨシ群落
- ⑭ 人工草地
- い イ群落

樹林区分

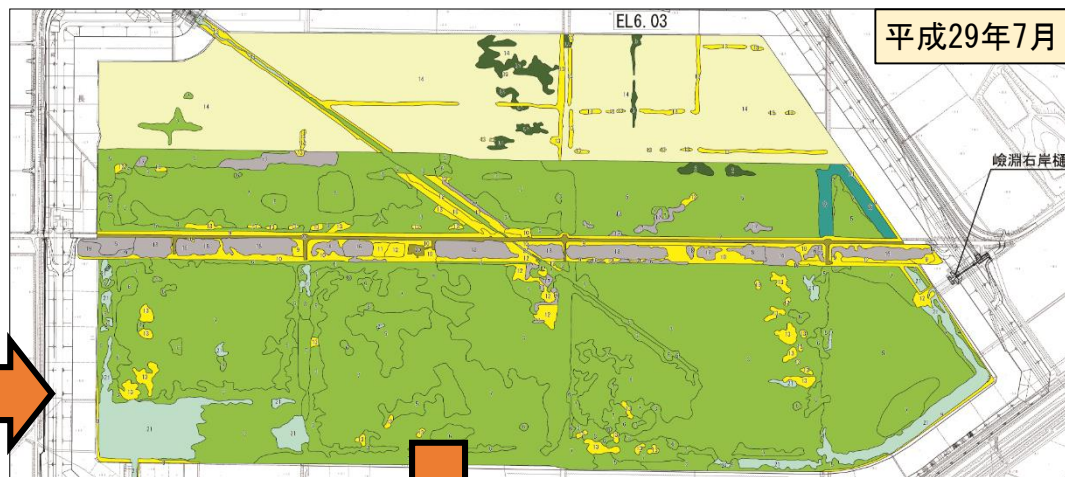
- ⑮ ケヤマハンノキ林
- ⑯ ヤナギ林
- ⑰ ヤナギ低木林
- ⑱ ヤチダモ植林
- ⑲ ストローブマツ植林
- ⑳ 裸地
- ㉑ 開放水面
- ㉒ 微高地



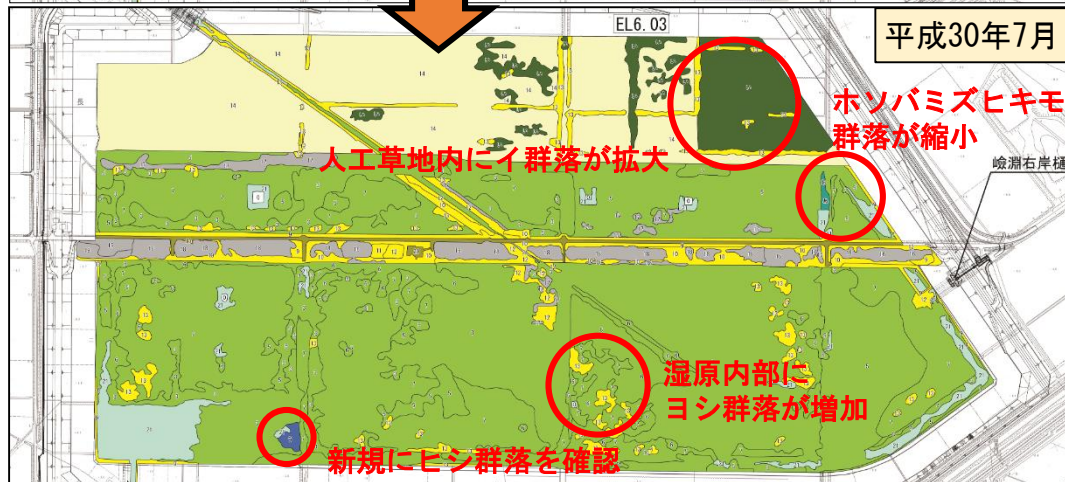
平成27年7月



平成28年7・9月



平成29年7月



平成30年7月

人工草地内にイ群落が増大

ホソバミズヒキモ群落が縮小

湿原内部にヨシ群落が増加

新規にヒシ群落を確認

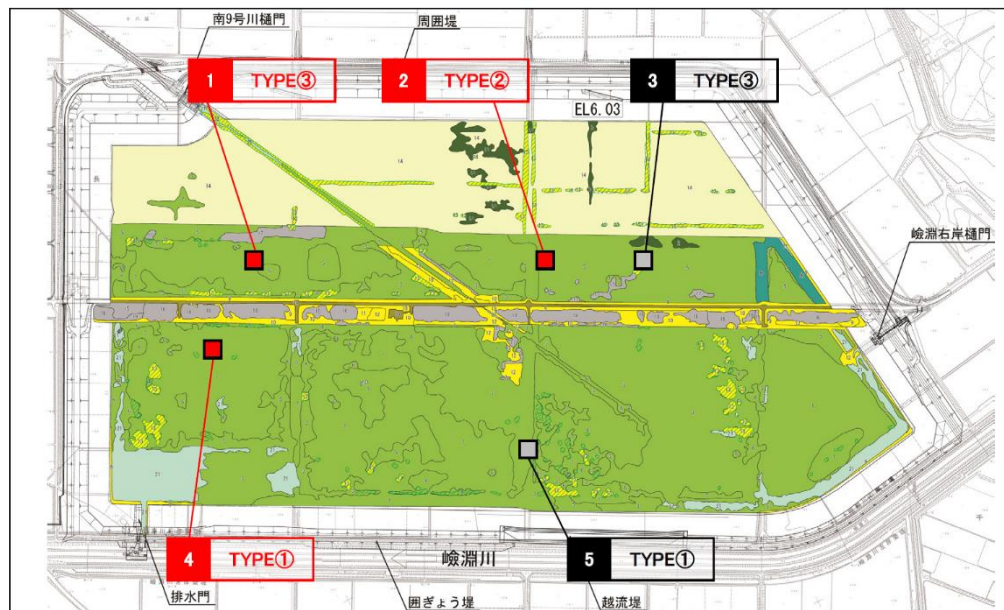
- ヨシ原は1ha程度広がり約5haに拡大($38,488\text{m}^2 \rightarrow 50,328\text{m}^2$)。
- 樹林面積は微増($57,639\text{m}^2 \rightarrow 59,942\text{m}^2$)。開放水面は1ha程度減少($60,345\text{m}^2 \rightarrow 50,780\text{m}^2$)。
- 防風林や道路法面において、特定外来生物のオオハンゴンソウが確認された。
- 重要種としてミズアオイ、ヤナギタウコギなど12種が確認された。

遊水地内微高地へのヨシの植栽

- 平成29年度に、タンチョウが繁殖しやすい環境形成のため「微高地」を遊水地内5箇所に造成した。
- 早期のヨシ群落成立を目的として、5月23・24日に微高地3箇所（No. 1, 2, 4）にヨシを植栽した。

実施日：平成30年5月23日、24日

実施場所：舞鶴遊水地内に造成した微高地 No. 1, 2, 4（下図）



5月 植栽時



9月



10月

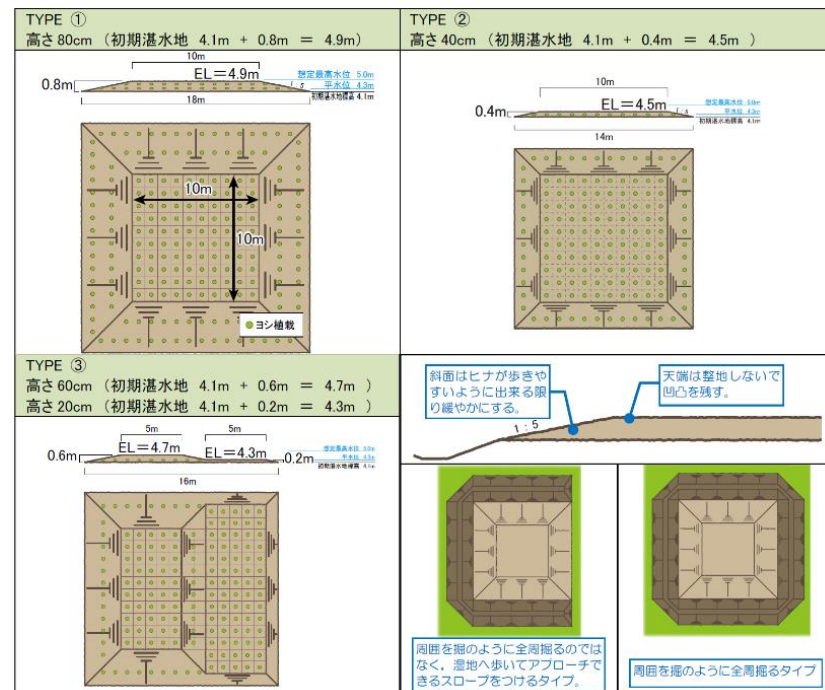
植栽方法：千歳川流域産のポット苗を使用

植栽密度：2本/m²

配置：微高地を1m×5mの帯状に区切り、約50cmの間隔でポット苗を植栽。



●図内に表記されている「TYPE」について
微高地の形状は、設定標高の組み合わせにより3タイプが設定されている。



遊水地内微高地のモニタリング調査

- 舞鶴遊水地に造成した微高地について、植生及び平面地形のモニタリング調査を行っている。
- 標高が高い微高地No. 4はヨシの生育高、1株あたりの稈数も高かった一方、侵入植物も多かった。
- ヤナギ類の稚樹や外来種（オオアワダチソウ・アメリカセンダングサなど）の侵入が確認された。
- タンチョウは水面より少し高い地面を好んで造巢するが、今年度は1～5月にかけて例年より水位が高く、**全ての微高地が長期間冠水**したと考えられる。

ヨシの定着状況・植生の侵入状況

微高地 No.	微高地の 天端高	在来種		外来種	ヨシの 植栽	植被率	生育高	稈数
		草本	木本					
1	TYPE③ 4.3m・4.7m	27種	-	3種	有	50-90%	17.8- 48.7cm	7-10本
2	TYPE② 4.5m	22種	-	2種	有	30-65%	10.3- 56.1cm	9-12本
3	TYPE③ 4.3m・4.7m	23種	1種	2種	-			
4	TYPE① 4.9m	25種	4種	7種	有	40-85%	6.8- 70.7cm	11-16本
5	TYPE① 4.9m	27種	1種	3種	-			

微高地への侵入が確認された植物のうち、
タンチョウの巣材となるヨシとの競合が懸念される植物

木本種

➢ イヌコリヤナギ、エゾノカワヤナギ、エゾノキヌヤナギ、オノエヤナギ

外来種

➢ オオカナダオトギリ、タチオランダゲンゲ、ムラサキツメクサ、シロツメクサ、アメリカセンダングサ、ヒメムカシヨモギ、オオアワダチソウ、セイヨウタンポポ、ヌマイチゴツナギ

その他

➢ アキタブキ

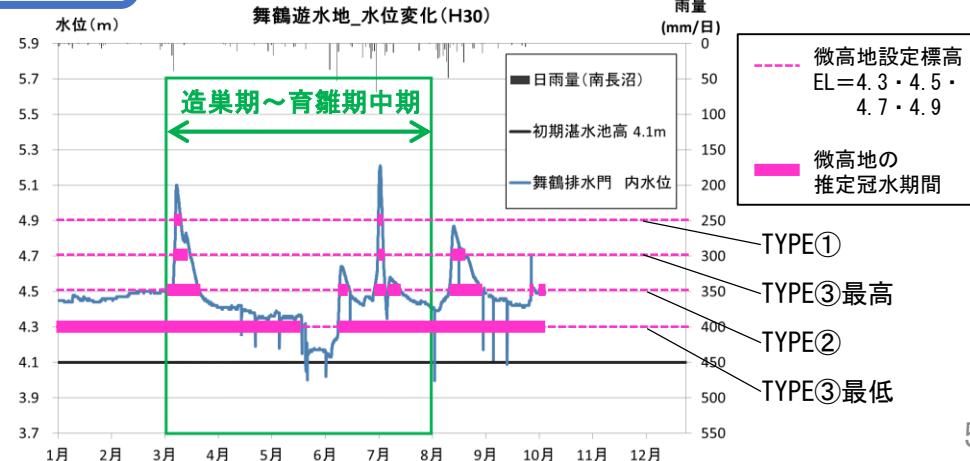


※微高地上に1mx1mの方形枠を4つ設置し、調査した数値。

冠水状況

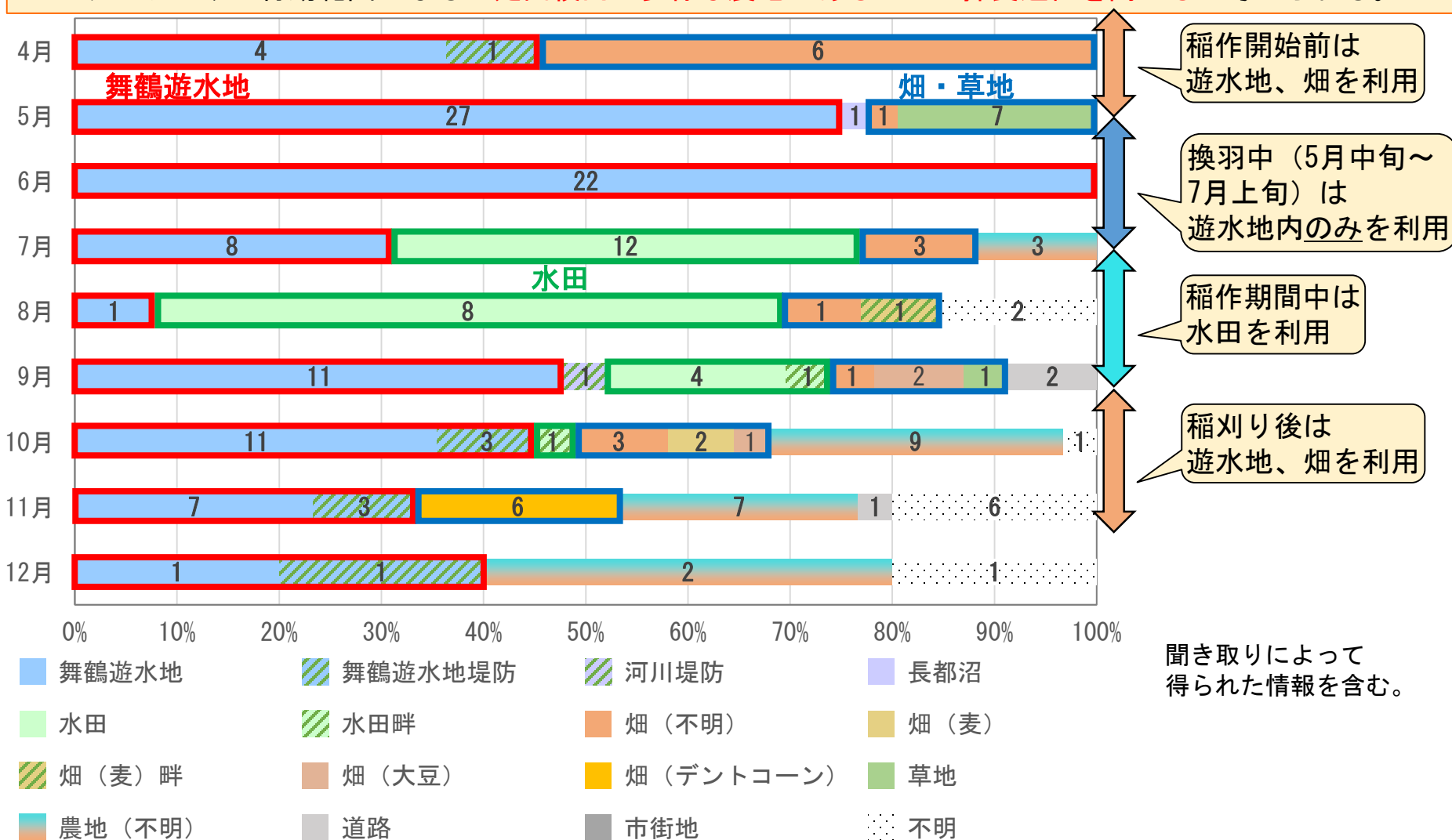
今年度は1～5月にかけて例年より水位が高く、

- TYPE③の低い天端は造巢期～育雛期中期に長期間冠水していたと考えられる。
- TYPE③の高い天端及びTYPE①、TYPE②は2～4回にかけて最長20日程度冠水したと考えられる。



平成30年のタンチョウの利用環境

- 平成30年のタンチョウの飛来状況より、月別の利用環境と確認回数をまとめた。
- 換羽中は舞鶴遊水地のみで過ごしたことから、舞鶴遊水地内にも十分な採食資源があると考えられる。
- 換羽前後は農地の利用が多く、道央圏では農地が採食環境として重要な役割を持つと考えられる。
- 利用農地は季節によって異なり、**季節に応じて採食効率の良い農地を選択している**と考えられる。
⇒タンチョウの行動範囲となる**一定面積内に多様な農地があることが採食適性を高める**と考えられる。



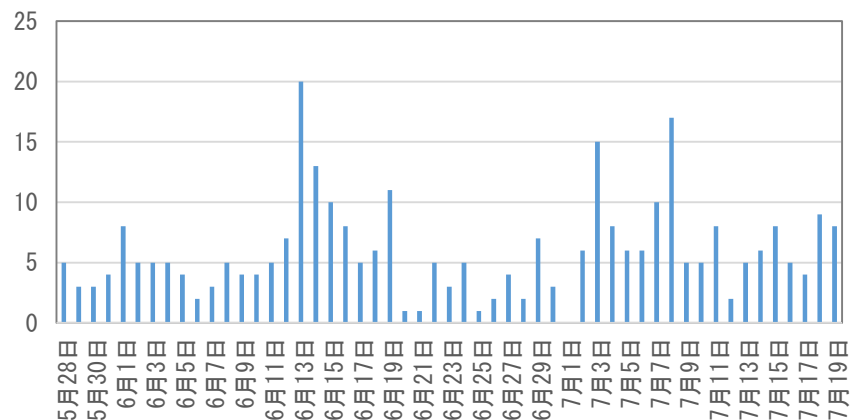
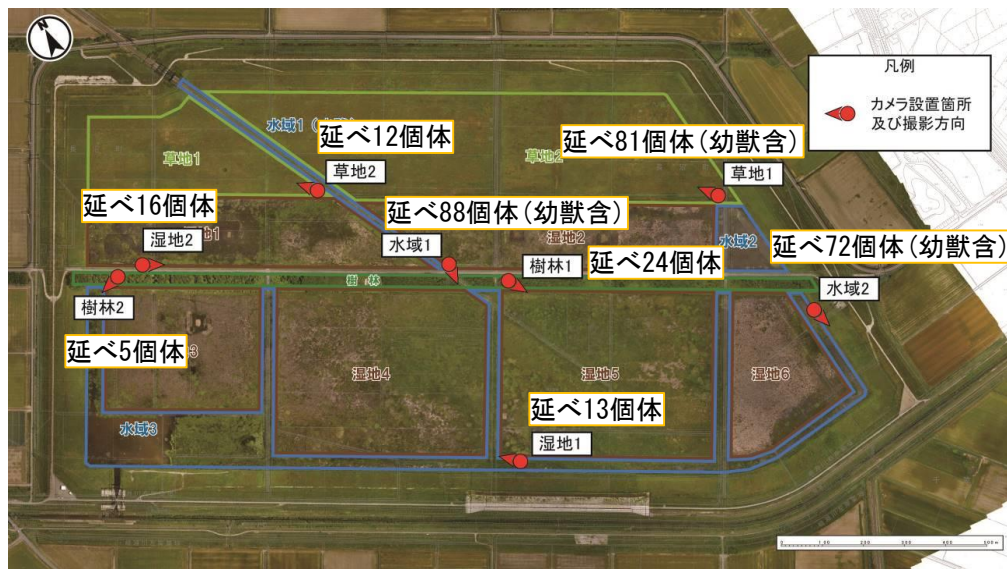
(3) 生息環境専門部会の 取組状況について

舞鶴遊水地におけるセンサーカメラ（写真）の設置

千歳川河川事務所によるセンサーカメラを用いたアライグマ生息確認調査

- 全ての地点でアライグマが撮影された。
- 3地点（草地1、水域1、水域2）では幼獣を連れたアライグマの家族も撮影されており、舞鶴遊水地の近傍で繁殖している可能性がある。
 - 草地1：6月29日、7月3日・7日・8日・9日
 - 水域1：7月10日・18日・19日
 - 水域2：7月4日

●センサーカメラ設置場所



日別のアライグマ撮影個体数（河川事務所設置カメラ）



撮影されたアライグマ家族



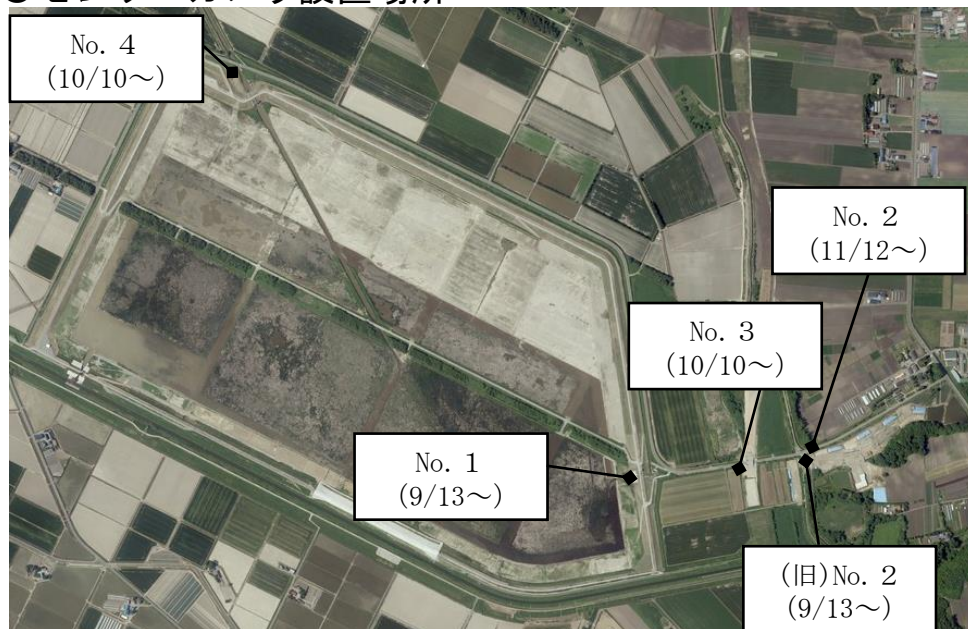
自動撮影カメラ（Reconnyx HyperFire HC500）



舞鶴遊水地におけるセンサーカメラ（動画）の設置

北海道大学 池田教授によるセンサーカメラを用いたアライグマ生息確認調査

●センサーカメラ設置場所



●設置結果

①9月13日～10月10日、②10月10日～11月12日、③11月12日～12月10日の期間に実施したところ、No. 1（嶮淵右岸樋門）では、計20回アライグマが撮影された。

期 間	撮影回数	備考
9/13～10/10	11回	親子連れ（親1、子1）が1回、他は単体
10/10～11/12	7回	親子連れ（親1、子2）が1回、他は単体
11/12～12/10	2回	全て単体

No. 3では、10月～11月の間に80回、No. 4では、10月～11月の間に2回アライグマが撮影された。

●結果

- 9月と10月に撮影された親子連れは、別個体。
- 活動範囲が減少する冬に近づくにつれて、撮影回数が減少していること、No. 3の撮影回数が多いことから、遊水地に常駐している個体はおらず、馬追丘陵から侵入してきていると考えられる。
- アライグマの尾の形状（先端の色、輪の本数など）から、遊水地に入り込んでいる個体は、最低でも4頭と考えられる。
- No. 4の撮影回数が少ないことから、南9号川からの侵入は少ないと考えられる。

●アライグマ防除について

- 遊水地に常駐している個体はいないため、周囲からの侵入防止が重要。
- 設置した結果を比較できるように、毎年同じ方法で嶮淵右岸樋門周辺に設置すると良い。
- 嶮淵川沿いもアライグマの出現ポイントになるので、越流堤周辺での捕獲も有効。

舞鶴遊水地における箱わなの設置

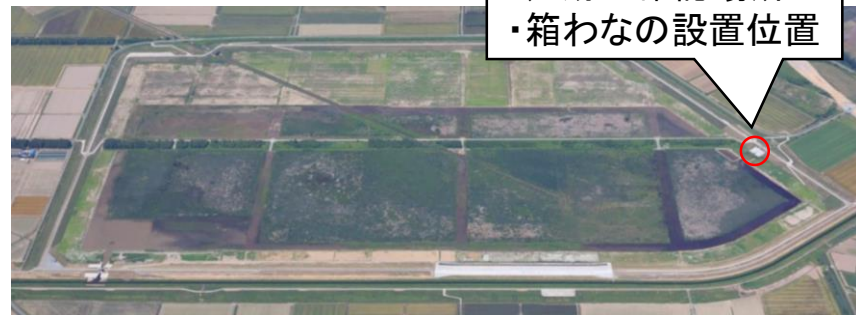
舞鶴遊水地における箱わな設置結果

アライグマの好む環境であり、足跡も確認された嶮淵右岸樋門を設置場所とした。また、降雨時には幌内川が増水することから、水辺から草地へ箱わなを移動させた。

その結果、箱わな設置期間中（169日間）に7頭のアライグマを捕獲した。

●箱わな設置場所

- ・足跡の確認場所
- ・箱わなの設置位置



草地（幌内川近辺）



水辺（幌内川）



設置前には専門家（北海道大学池田教授）に指導をいただいた。

●箱わな設置状況（途中撤去期間あり）

設置した箱わな	設置期間	設置日数
箱わな1	6月11日～11月13日	94日
箱わな2	7月17日～10月12日	57日
大型箱わな	10月12日～11月13日	18日

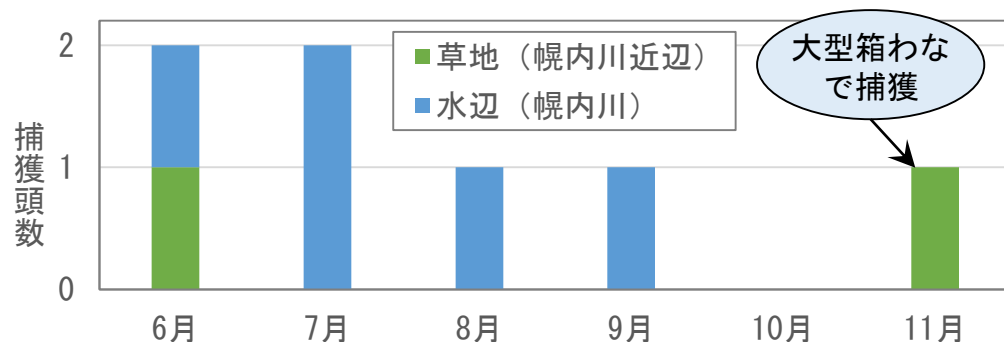
●CPUEと生息密度との関係

CPUE※	生息密度
4.121～	超高密度（3頭以上/km ² ）
2.518～4.120	高密度（2～3頭/km ² ）
0.914～2.517	中密度（1～2頭/km ² ）
0～0.913	低密度（0～1頭/km ² ）

※CPUE：捕獲効率。わな設置期間に対する捕獲数の比率。

※出典：北海道アライグマ防除技術指針

●アライグマ捕獲状況



のべわな日数	169日
捕獲頭数	7頭
CPUE	4.14

舞鶴遊水地におけるアライグマ生息密度
超高密度（3頭以上/km²）

タンチョウの電線衝突防止対策

- タンチョウが遊水地及びその周辺を採食場として利用し、遊水地と農地間を飛行して移動していることが確認されている。
- 遊水地近傍には送電線があり、タンチョウが電線に衝突して怪我や死亡する事故も想定されることから、電線衝突事故を防ぐため、専門家や電力事業者等の関係者合同で現地立会を行った。

実施日：平成30年11月16日（金） 10:00～11:30



現地立会の様子



舞鶴遊水地南側の電線

現地立会における専門家からの主な意見

- タンチョウは目が良いが、時間帯や天候などによっては電線に衝突するおそれがある。
- 高さ50mの送電線はその下を飛ぶので対策優先度は低い。
- 障害物が並ぶ中に開けた場所があるとタンチョウはそこを選んで通り抜けようとするので、そのような場所に電線があると衝突の危険性が高い。
- 電線を太くすることでもタンチョウへの配慮になるが、色も目立つ色にした方が望ましい。

道東地域における対策事例

- 電線衝突によるタンチョウ死亡が問題となり、タンチョウ保護増殖事業の一環として環境省が電力事業者に依頼し対策を実施。
- 水辺の近くなど特に必要な箇所に区切って送配電線に標示管を設置している。



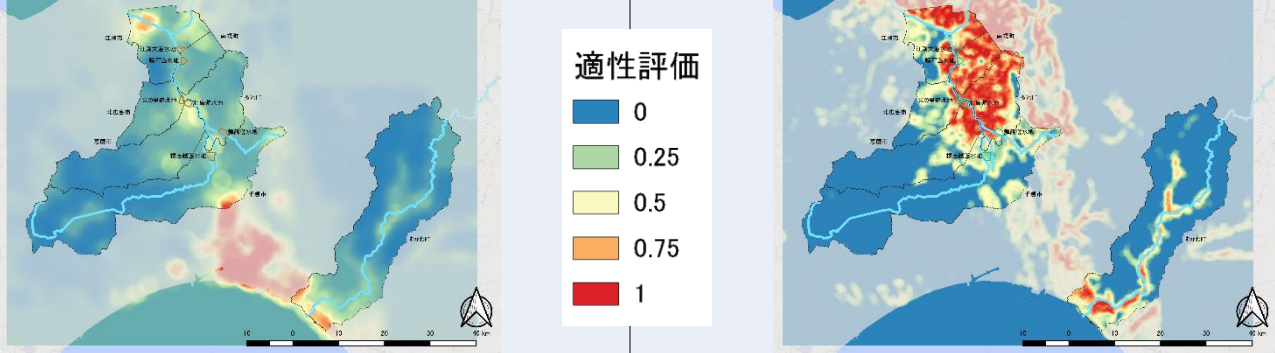
配電線に取り付けた黄色標示板



送電線に取り付ける赤色標識板

写真提供：北海道電力株式会社

解析モデルを用いた流域内環境の営巣適性と採食適性評価

	営巣適性評価	採食適性評価
評価内容	4. 5km圏内のヨシ原やハンノキ林等の割合	1. 7km圏内の水田と畑の広さとバランス
評価図		
評価結果 (舞鶴遊水地)	■ タンチョウが繁殖するむかわ町のように高い数値ではないが、遊水地内及び長都沼にあるヨシ原の影響で千歳川流域の中では評価が比較的高い。	■ 水田と畑がいずれも多く存在しており、タンチョウが繁殖期に採食できるポテンシャルはあると考えられる。
環境の改善	■ 遊水地内外でのヨシ原の拡大に取り組むことが有効。ただし、多様な環境の形成に留意が必要。 ■ 流域内農地において、農家の理解を得ながら、農薬・肥料低減などの生きものに配慮した農業に取り組むことが有効。 ■ 実際の環境改善においては、他の要因にも留意する。 ・ 周囲からの見通し ・ 採食資源量 ・ 人工構造物（道路、建物、送配電線など） ・ アライグマ等の外敵 など	

対外情報発信の取組

今後の対外情報発信の強化に向けた取組（案）

〔1〕自然と目に入る情報発信、〔2〕遠くの人でも触れられる情報、〔3〕取組の最新の動向の発信に留意して、引き続き情報発信の強化に努める。

取組（案）	〔1〕 認知度	〔2〕 遠隔地	〔3〕 最新情報
取組1 ポスターの設置 第1号(事務局案)を作成し、町内企業等に依頼して設置中。	●	● (企業に依頼)	
取組2 「タンチョウも住めるまちづくり」のWebサイトの整理 札幌と長沼町のHP上で、タンチョウも住めるまちづくりに関するリンクを整理。		●	●
取組3 タンチョウ通信の対外向け発行 掲載内容は情報発信ルールに基づいて見直し			●
取組4 メールマガジンやSNSを活用した情報発信 配信内容は、タンチョウ通信の内容を基本とする。	● (SNS活用)	●	●
取組5 野鳥観察ガイド（リーフレット）の現地への設置 舞鶴遊水地で観察できる野鳥を紹介する内容。	自然の魅力を伝えるとともに、タンチョウの観察方法なども普及啓発。		



ポスター



札幌開発建設部Webサイト



長沼町Webサイト



タンチョウ通信
現状では検討協議会委員向けに発行

情報発信ルールの検討

情報発信ルール（案）

定着（安定的に繁殖）するまで

	情報の内容
発信 制限 事項	当年における長沼町内でタンチョウが確認された日付 現在長沼町内でタンチョウが飛来しているかどうか タンチョウが確認された長沼町内の詳細位置（遊水地を除く） タンチョウが確認された遊水地内の詳細位置
発信可能事項	前年までににおける長沼町内でタンチョウが確認された日付



定着（安定的に繁殖）してから

	情報の内容
発信 制限 事項	タンチョウが確認された長沼町内の詳細位置（遊水地を除く） タンチョウが確認された遊水地内の詳細位置
発信可能事項	前年までににおける長沼町内でタンチョウが確認された日付 当年における長沼町内でタンチョウが確認された日付 現在長沼町内でタンチョウが飛来しているかどうか
非常時の対応	下記の期間の情報発信は「定着するまで」のルールに準じ、必要に応じて生息環境専門部会や専門家と連携を取る。 ・タンチョウの換羽が確認されている期間 ・タンチョウの営巣が確認されている期間 ・タンチョウの抱卵・育雛が確認されている期間

舞鶴遊水地への人の関わり方

- 「タンチョウも住めるまちづくり」を検討するにあたり、舞鶴遊水地における人の関わり方（どこまで関わって良いか）を慎重に判断する必要がある。
- 来訪者の希望や環境教育的役割の視点を踏まえて、将来の関わり方のイメージを検討した。

現状： 来訪者（観光客等）は、周囲堤天端にて、車内または建物内から観察する。
ただし、車外に出たり周囲堤内側に入ったりする人もいる。

論点： (1) 自然を近くで見たいという観光客からの意見（H29とH30のアンケートより抜粋）

⇒「水面近くにブラインドになる壁をつくってほしい」

「水辺近くに観察できるようなのぞき窓付のフェンスなどがあると良い」

「タンチョウが（遠くて）小さくしか見えなかった」

「ガラス越しだと撮影には向かない。ハイドがあると、カメラマンが来ても便利」

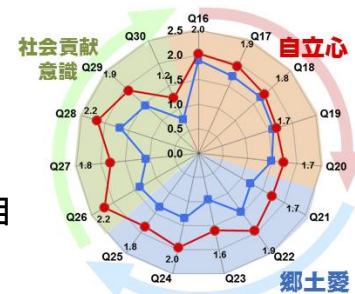
(2) 長沼町住民の舞鶴遊水地への愛着心や当事者意識の養成

のおがた

⇒直方川づくり交流会（福岡県直方市）のアンケート調査事例では、川づくりを通じた環境教育プログラムによって郷土愛を育む効果が出ている。地域住民が、各自の興味や技能、都合などにあわせて関わるができる仕組みがあると良い。

(3) 環境の維持・管理活動の必要性の高まり

⇒平成30年度に実施した環境調査において、微高地へ外来植物や樹木の侵入が確認された。これらの植物は健全なヨシの生育を阻害するおそれがある。



■ 水辺館が提供するプログラムに参加していない
● 水辺館が提供するプログラムに参加している

直方川づくり交流会・遠賀川河川事務所
平成29年1月20日付プレスリリース より

「舞鶴遊水地への人の関わり方」将来イメージ（案）

主体	関わり方の内容(案)
来訪者（観光客等）	車内または建物内から観察を原則とするが、定められた場所では設置されたハイドや散策路からの観察を楽しめる。
住民等	活動のガイドライン（仮称）に従って、地域住民や企業・学校が清掃や環境管理などの活動を実施。

これらを具体化するための必要事項は、タンチョウの生息状況を踏まえて、**将来的な検討事項**とする。

(4) 地域づくり専門部会の 取組状況について

鳥の駅マオイトーの利活用

平成29年10月に舞鶴遊水地に仮設した施設について、名称の確定及び展示内容の一部リニューアルを実施。

■名称「鳥の駅 マオイトー」

由来：舞鶴遊水地がもともと「マオイトー」という沼だったことや、今は野鳥が羽を休める場として利用していること

■展示物のリニューアル



窓に名前を貼り付け



バードセーバー



子どもたちが作成したポスター



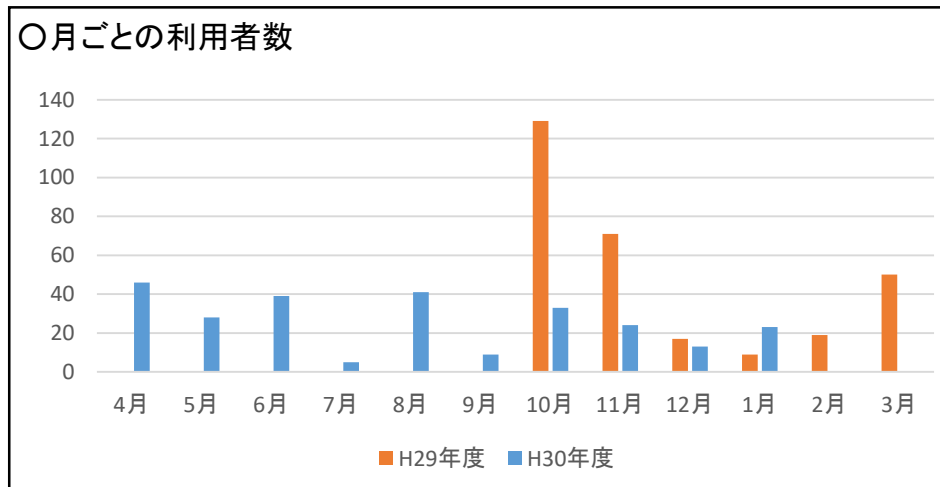
タンチョウの等身大パネル



翼を広げたタンチョウ

■アンケート調査

調査実施期間：4月1日～2月4日 ／ 回答者数：112件 ／ 来訪者数：261名（大人238名、子ども23名）



調査実施期間：4月27日～2月4日（途中経過）

アンケート回収数：66件

【施設に用意してもらいたいもの】

最も多い回答はトイレ（32件）、次いで望遠鏡（31件）、双眼鏡（21件）、自動販売機（15件）となった。

【遊水地で開催して欲しいイベント】

最も多い回答は野鳥の観察会（42件）、次いで生き物調査などの体験イベント（20件）、野菜の直売などのイベント（10件）となった。

タンチョウをモチーフとした商品

地域づくり専門部会において、取組の普及啓発・地域経済の活性化を目的とした「タンチョウソフト」を企画。町内の1店舗において販売を開始。また、町内の菓子店においてタンチョウをモチーフとした羊羹を発売。

タンチョウソフト

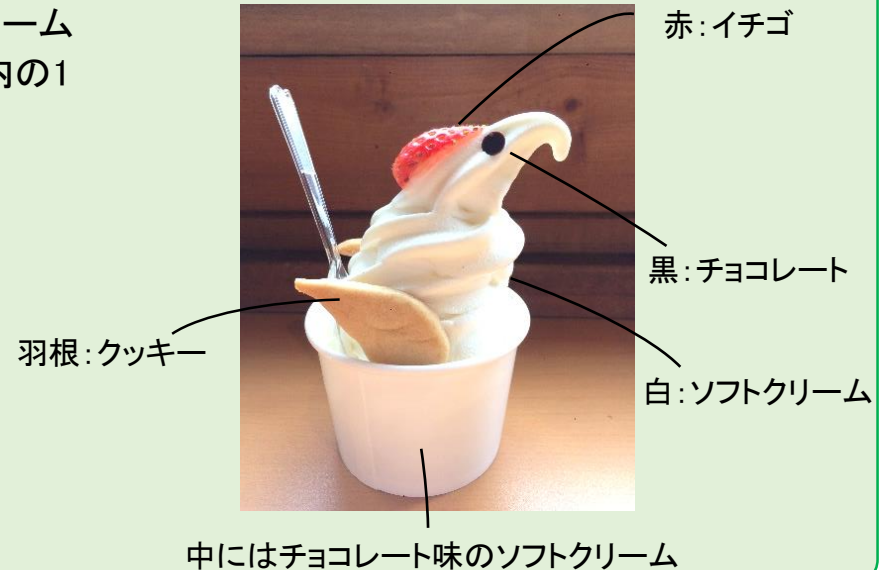
タンチョウをモチーフにした「タンチョウソフト」を企画。町内のソフトクリーム販売店に販売意向についてヒアリングを実施。平成30年5月より、町内の1店舗がタンチョウソフトを販売中。

■タンチョウソフトの条件

1. 名前は「タンチョウソフト」とする
2. タンチョウを表す「赤」「白」「黒」を入れる
3. 「赤」「白」「黒」のうち、いずれか1つ以上は長沼町でとれる・つくられるものを使用

■タンチョウソフト 販売店

あいすの家 長沼本店
価格：400円



羊羹

町内の菓子店より、平成30年7月からタンチョウを
モチーフとした羊羹「双鶴と雪」そうかくを販売。
長沼町産の小豆を使用。

■販売店の概要

森下松風庵
価格：1,000円



タンチョウも住めるまちづくり ロゴマークの募集

本取組の普及啓発及び、取組へ親しみを持ってもらうことを目的に、タンチョウも住めるまちづくりを象徴するロゴマークを募集。応募作品から、タンチョウも住めるまちづくり 地域づくり専門部会により候補を4点に絞った後、子どもたちによる投票を行い、各賞のロゴマークを選定。

【概 要】 応募件数:262件(33都道府県から応募)

投 票 数:120票(本取組を授業で学んだ長沼中央小学校5年生 70名と長沼高校3年生 50名)

主 催:長沼町、タンチョウも住めるまちづくり検討協議会 地域づくり専門部会

協 賛:長沼町観光協会、長沼町商工会、ながぬま農業協同組合 ※五十音順

【結 果】

最優秀賞 ※タンチョウも住めるまちづくりのロゴマーク等として広く使用



徳平 加寿也 氏(大阪府／60歳)

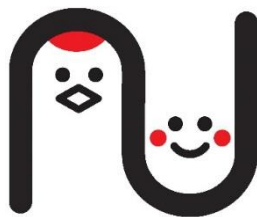
■コンセプト

「Naganuma(長沼)」の「N」をシンボル化した青いラインは、舞鶴遊水地を表しており、同時に、赤い丸と青いラインとで、タンチョウを迎え入れる人を表しています。羽ばたくタンチョウと、それを迎えてくれる人、そして営巣を目指す舞鶴遊水地を象徴しており、豊かな自然に恵まれた長沼町が「タンチョウも住めるまちづくり」に取り組んでいることを示すロゴマークです。

優秀賞



矢吹 雅之 氏(札幌市／54歳)



福元 洋平 氏(福岡県／32歳)



たかしま こうじ 氏(大阪府／54歳)

長沼中央小学校・長沼高校への出前授業

今年度より、長沼中央小学校の5年生が、総合的な学習で本取組を学習しており、室内授業のほか、舞鶴遊水地での生きもの探しなどを実施。また、平成28年度から引き続き、長沼高校の3年生も室内授業と舞鶴遊水地の現地見学を実施。

長沼中央小学校

対 象:5年生(72名) 教 科:総合的な学習の時間



正富先生の授業



加藤会長の授業



舞鶴遊水地での生きもの探し



越冬分布調査

3学期には学習したことをまとめ、子どもたち自身がタンチョウも住めるまちづくりについて考え、発表会を行う予定。

■実施内容

日 程	内 容
6月13日	タンチョウのことを知ろう(正富先生)
7月5日	タンチョウも住めるまちづくりって、なんだろう？ (舞鶴遊水地にタンチョウを呼び戻す会 加藤会長)
7月18日	タンチョウも住めるまちづくりって、なんだろう？Part2
8月21,28日	舞鶴遊水地に行ってみよう(1クラスずつ実施)
10月22日	タンチョウも住めるまちづくりの取組を知ろう (地域づくり部会 市東委員)
12月5,10日	タンチョウの越冬分布調査に参加してみよう(1クラスずつ実施)

長沼高校

対 象:3年生(52名) 教 科:生物

タンチョウも住めるまちづくりの概要を説明後、舞鶴遊水地の現地見学を実施。現地見学では、換羽中のタンチョウを車内から観察。



屋内授業(6/28)



現地見学(7/2)

長沼タンチョウレンジャー ～小鳥たちを守るために、バードセーバーをつくろう！～



バードセーバーの台紙(チゴハヤブサ)

【開催概要】

日時 平成30年11月23日(金)9:00～10:00

主催 タンチョウも住めるまちづくり検討協議会 地域づくり専門部会

参加者 子ども10名、保護者6名、一般1名

運営 地域づくり専門部会2名、長沼町2名

【実施内容】

①バードセーバーづくり

バードストライクとその対策を説明し、バードセーバーづくりを実施。子どもたちは、チュウヒとチゴハヤブサを模した台紙から好きな方を選んで、色を塗った。



好きな色を塗る子供たち



鳥の駅に設置されたバードセーバー

②舞鶴遊水地に飛来した野鳥の観察



野鳥を観察する参加者

舞鶴遊水地で見られる野鳥の種類などを説明。その後、双眼鏡や望遠鏡を使って、舞鶴遊水地に飛来していた野鳥(コハクチョウ、ヒシクイなど)を観察。

長沼町 × 鶴居村 タンチョウ子ども交流ツアー

タンチョウを中心とした両町村の特色や魅力を学ぶことを目的に開催。参加者は、長沼町と鶴居村をそれぞれ訪問し、体験活動などを通じ、交流を深めた。

第1回タンチョウ子ども交流ツアー in長沼町

開催日: 8月9日～11日

参加者: 子供28名(長沼町 小学生12名、鶴居村 小学生11名・中学生5名)

「タンチョウも住めるまちづくり」を学ぶとともに、舞鶴遊水地での生きもの探しや岩笛作り、蕎麦打ち体験などを実施。また、最終日には、班ごとに活動の感想や学んだことなどを発表。



タンチョウの形の岩笛作りを体験



舞鶴遊水地での生きもの探し

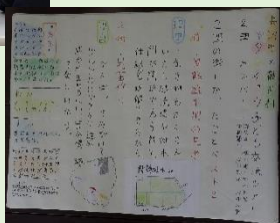


活動の中で楽しかったことを話し合い



壁新聞を保護者や地域住民の前で発表

班ごとに壁新聞を作成



第2回タンチョウ子ども交流ツアー in鶴居村

開催日: 9月29日～30日

参加者: 子供29名(長沼町 小学生10名、鶴居村 小学生14名・中学生5名)
保護者7名(長沼町)

釧路湿原やタンチョウと人との関わりについて学び、タンチョウの観察、酪農家からのお話、釧路湿原の散策など実施。鶴居村にタンチョウが多く生息している理由を考え、まとめのポスターを作成。



酪農家からタンチョウに対する想いを聞く



釧路湿原の散策



班ごとに話し合い



班で話し合った意見を発表し、全体で考えをポスターにまとめた

スノーアート「舞鶴遊水地で、雪の上に絵をかこう！」

タンチョウも住めるまちづくりの普及啓発を目的に、2月16日～17日に舞鶴遊水地において80m×45mのスノーアートを作成。17日には、関係者のほかに町内の小学生及びJAL関係者も参加した。

実施概要

日 時 ①平成31年2月16日(土)9:00～12:00 ②平成31年2月17日(日)9:00～11:30

参加者 ①大人23名、②子ども9名、大人22名

1.基準となる5m×5mのラインを踏む



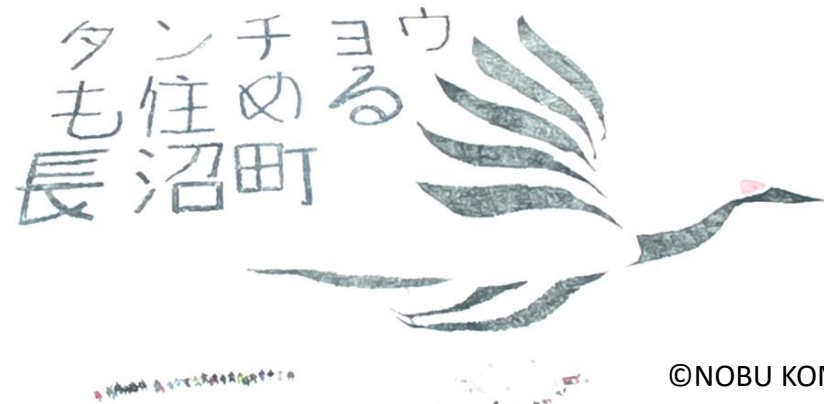
2.基準のラインを参考に、下絵を作成



3.融雪剤を散布



4.タンチョウの頭は食紅を使用



©NOBU KOMA

JALのFacebookにおいても、
2月25日に本取組を紹介

ドローンから撮影したスノーアート
イラスト部分は、今年度決定したロゴマークのタンチョウ部分を使用

取組の普及啓発

■タンチョウ等身大パネルの設置

タンチョウを身近に感じてもらうため、役場、リふれ、図書館、温泉、道の駅に実物大のタンチョウパネル(札幌開発建設部 作成)を設置。

■ポスターの設置

【設置場所】

- ・役場等町有施設(7箇所)
- ・長沼中央小学校
- ・長沼高校
- ・長沼郵便局
- ・鳥の駅マオイトー
- その他、商店等(8か所)

■広報ながめまでの連載

「タンチョウ博士のお話」と題して、正富先生(専修大学北海道短期大学 名誉教授)の寄稿を2か月に1回掲載。

■その他、取組紹介

- ・月刊誌「河川」12月号(発行:日本河川協会)に、舞鶴遊水地にタンチョウを呼び戻す会と長沼町の共著で寄稿。
- ・北海道市長会、北海道町村会主催で開催された「心のふるさと写真展 in チ・カ・ホ」で取組を紹介。



チカホで掲示したパネル

道の駅に設置したパネルとポスター



その他の主体による普及啓発

■金融機関による普及啓発

- ・発行物への掲載

実施主体:空知信用金庫

「まちかど短信」の1月号において、本取組を紹介。

まちかど短信は、年3回、各号約4万部を発行。岩見沢市、江別市、美瑛市、由仁町、長沼町などが配布エリア。



- ・ロビー展示

実施主体:三井住友信託銀行

期間:12月~1月(予定)

札幌支店・札幌中央支店において、本取組を紹介するロビー展示を実施。



■工事看板への掲示

実施主体:三共舗道株式会社

期間:11月上旬~1月中旬

国道337号線の補修工事中に設置される看板にタンチョウの写真など掲示。



タンチョウも住めるまちづくり検討協議会 第3回地域づくり専門部会 開催概要

平成30年度の実施の取組の情報共有及び来年度以降の行動計画について検討をしました。また、新たな委員の参加が承認されました。

- ◆開催日時:平成31年2月7日(木) 19:00～20:30
- ◆開催場所:長沼町役場 3階 会議室
- ◆出席人数:19名(委員8名、報道機関・事務局等11名)



【平成30年度の実地づくり専門部会の取組状況について】

2つのWGにおいて、具体的な取組を検討・実施。

《取組内容》

- 鳥の駅マオイトーの利活用
名称の確定及び展示内容を一部リニューアル。
- タンチョウをシンボルとした商品の企画
普及啓発を目的に企画したタンチョウソフトが町内の1店舗から販売。また、町内の菓子店からタンチョウをモチーフとした羊羹が販売。
- タンチョウも住めるまちづくり ロゴマーク募集
262件の応募作品から、候補を4点に絞った後、子どもたちによる投票を行い、ロゴマーク(右図)が決定。
- 小学校・高校への出前授業
今年度より長沼中央小学校5年生が授業で本取組を学習。平成28年度から引き続き、長沼高校も授業を実施。
- 鶴居村との交流事業の実施
両地域の魅力等を学ぶため、子どもたちが体験活動を通じて交流。
- イベントの開催
 - ・バードセーバーイベント(11/23 開催)
 - ・スノーアートイベント(2/16-17 開催予定)
 - ・渡り鳥のねぐら観察イベント(3/24 開催予定)



【新規委員の追加について了承】

【来年度以降の実地について】

- ・今年度、検討・実施した取組の継続
- ・グリーンツーリズムとの連携(プログラム等の検討)
- ・タンチョウをモチーフとしたパンの検討
- ・タンチョウサポーター(仮称)・タンチョウレンジャーの検討
- ・舞鶴遊水地の将来的な利活用

【委員からの意見】

- ・先進地視察を行い、本取組に繋がるヒントを得たい。
- ・ロゴマークは名刺に使用するなど、積極的にアピールしたい。
- ・タンチョウソフトなど、タンチョウをモチーフにした商品は、今後も声掛けを行い、広げていきたい。
- ・取組を行うにあたっての資金や、タンチョウを守ることと産業との兼ね合いなど、悩みながら取組を実施している。

【総括】

- ・持続的な取組とするためには、事務局機能の安定化と自発的に活動できる人材の育成が求められる。
- ・先進地視察は、委員同士の繋がり強化にもつながるため、視察先を幅広く検討した上で、ぜひ、実施したい。
- ・取組にあたっての資金については、民間企業との連携やふるさと納税の活用など、様々な方法を検討するとよい。
- ・鳥の駅マオイトーは、現地での取組の核となる。本設に向けた検討を進められるとよい。
- ・ビジョンの共有が大事。そこでは観光消費を地域の所得、雇用、産業創出につなげる戦略が重要。

(6) 平成31年度以降の取組について

平成31年度以降の検討協議会・専門部会の取組（案）

※現時点で想定される参画主体。

目標	取組内容	実施主体※		参考議事
タンチョウ 生息環境	遊水地内造成箇所のモニタリング	札幌開発建設部	継続	議事 2
	ヨシ生育阻害植物の除去	札幌開発建設部（地域住民）	新規	議事 2
	アライグマ生息確認調査	札幌開発建設部	継続	議事 3
	アライグマ捕獲努力量調査	長沼町	継続	議事 3
	電線衝突事故対策	札建・長沼町（電力事業者）	新規	議事 3
市民参加型 地域形成	イベント、パンフレット等での普及促進	長沼町など	継続	議事 5
	多様な主体の連携による見守り活動	タンチョウを呼び戻す会	継続	議事 4
	出前講座	長沼町	継続	議事 4
	鶴居村との子ども交流イベント	長沼町	継続	議事 4
	webサイトの整理	札建・長沼町	継続	議事 3
農業・観光 経済活性化	タンチョウ通信の対外向け発行	札建・長沼町	新規	議事 3
	先進事例の視察	地域づくり専門部会	新規	議事 4
	タンチョウをシンボルとした商品開発	地域企業(地域づくり専門部会)	継続	議事 4
	PR・普及啓発用動画の制作検討	地域づくり専門部会	継続	議事 4
	『広報ながめま』の連載	長沼町	継続	議事 4
今後の 検討事項	スノーアート等のイベント	地域づくり専門部会	継続	議事 4
	グリーン・ツーリズムとの連携（プログラム等の検討）			議事 4
	タンチョウサポーター（仮称）・タンチョウレンジャーの検討			議事 4
	舞鶴遊水地の将来的な利活用			議事 4
	既存施設の活用方策			
	多様な主体の関わり			

平成31年度 舞鶴遊水地の環境モニタリング計画（案）

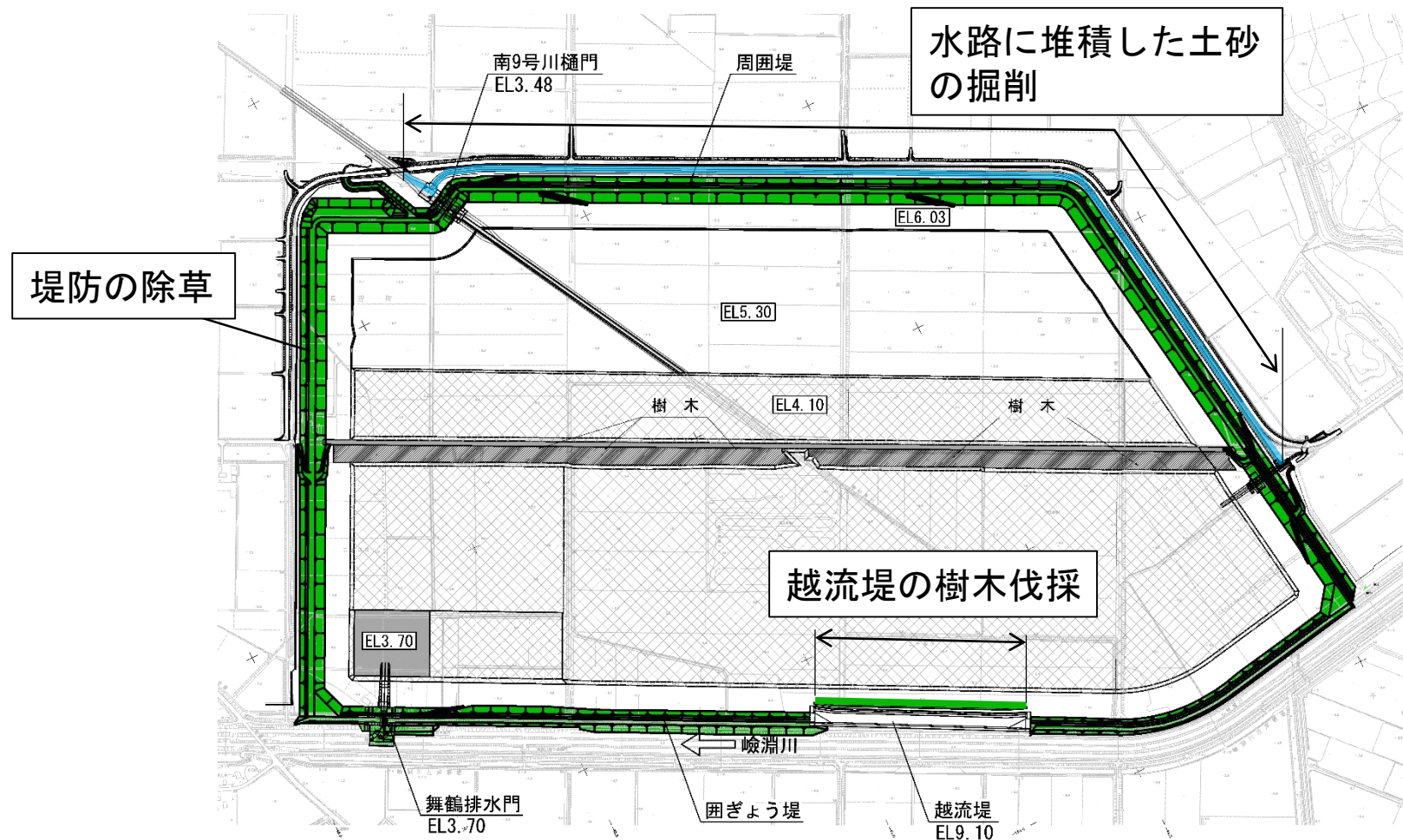
次年度、札幌開建で実施予定の「タンチョウの生息や遊水地環境に関わる調査」は次のとおり

調査項目	調査内容	備考
タンチョウ モニタリング調査	行動追跡調査（春～秋の月1回） 遠隔カメラによる所在調査（平日）	継続 継続
鳥類調査 （タンチョウ除く）	一般鳥類調査（春・夏・秋）、猛禽類調査（春） チュウヒねぐら調査（秋）、渡り鳥調査（春・秋）	継続 継続
植物調査	植物相調査（春・夏・秋） 群落組成調査（夏）	継続 継続
水質・底質調査	水質調査（春、夏、秋） 底質調査（夏） <u>冬季未凍結箇所湧水の調査</u>	継続 継続 新規
微高地の営巣環境 調査	微高地上の植物調査（夏・春・秋）、地形測量（秋） <u>センサーカメラによる微高地状の動物活動調査（春～夏）</u>	継続 新規
アライグマ生息確認 調査	センサーカメラによるアライグマの生息状況調査（春～夏）	継続

平成31年度 舞鶴遊水地の維持管理工事について

次年度、札幌開建で実施予定の維持管理工事は、下記の通り。

※工事にあたっては、タンチョウの飛来状況等を踏まえ実施する。



タンチョウの飛来状況や普及啓発の取組、アライグマ対策について報告し、意見交換を行いました。また、昨年度造成した微高地や秋まき小麦の擬似食害調査について報告しました。

◆開催日時：平成31年2月13日（水） 10:00～11:30

◆開催場所：長沼町役場 3階 会議室

◆出席人数：委員15名、アドバイザー5名、随行者2名、長沼町8名、傍聴2名

開会挨拶（長沼町 戸川町長）



○今年度のタンチョウの飛来状況や普及啓発の取組、タンチョウのヒナへの影響が懸念され、農作物被害もおこしているアライグマ対策など、今年度の取組状況を皆様に報告する。

○今後タンチョウとの共生を進めるうえでの助言やお知恵をいただきたい。



会議の様子

質疑応答・意見交換

【タンチョウの飛来状況等について】

- ・冬期、タンチョウは、舞鶴遊水地の幌内川周辺でタニシなどの貝類、水生植物の根や昆虫、魚類を捕食していると考えられる。
- ・遊水地の餌環境を考えると、1羽であれば、越冬は可能だが、2羽だと難しいだろう。

【アライグマ対策について】

- ・来年度の箱わなの設置場所については、専門家に相談しつつ、委員から意見のあった南9号川付近や、舞鶴遊水地の取り付け道路周辺（右図赤丸）も含めて検討する。



【秋まき小麦の擬似食害調査について】

- ・3か年継続して調査を実施し、同様の結果が得られたため、調査は今年度をもって、終了する。
- ・結果のとりまとめについては、呼び戻す会とも相談し、検討する。

【舞鶴遊水地での微高地造成について】

- ・微高地に生育が確認されている外来植物については、今後、人為的な抜き取りなどを実施する可能性がある。区画が狭いため、除草剤等を使用することは考えていない。
- ・微高地におけるモニタリング調査は、今後も継続予定。